



3月1日現在在籍数 320名

気仙沼市立松岩小学校

■ 本校の教育目標 ■

志を持ち、  
かしこく、やさしく、たくましく  
生きる児童の育成

令和5年度 学校だより NO.11

令和6年3月1日（金）発行

## 異学年交流と「みそっかす」

気仙沼市立松岩小学校 校長 佐々木 裕作

早いもので、令和5年度の教育活動も、残り3週間を残すばかりとなりました。今月の15日（金）には6年生の卒業式が、22日（金）には、1～5年生までの修了式が行われます。

6年生は、卒業に向けて様々な活動に取り組んでいますが、その中の一つに「下学年交流」という活動がありました。これは、休み時間に1～5年生の子供たちと「一緒に遊ぶ」という活動です。自分たちで遊ぶ内容を考え、役割分担をしながら活動しました。1～5年生の子供たちも、そして6年生の子供たちもみんな笑顔で、とても楽しそうに遊んでいました。その様子を見ていて、（やっぱり、こういう活動っていいなあ）と思いました。

異学年交流には、以下のようなメリットがあるとされています。

上学年の子供たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下学年のお世話をするすることで、人を思いやる気持ちや人に寄り添う態度が育つ。</li> <li>・活動をリードすることで、リーダーシップや責任感などが育つ。</li> <li>・活動をやり遂げることで、自分に自信が持てる。</li> </ul>
下学年の子供たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年上は頼れる存在であることに気付く。</li> <li>・「自分もこうなりたい」と憧れの気持ちを持つ。</li> <li>・「してもらってうれしかったことを、誰かにしてあげたい」という気持ちを持つ。</li> </ul>

そして、何よりも様々な学年の子供たちと触れ合うことで、「人と関わることの楽しさや喜び」を実感させることができます。子供たちの社会性（他者との関わりの中で、よりよい人間関係を構築する力や適切に行動する力など）を育てていくためには、必要な活動であると思っています。本校では、縦割り班活動として、年5回の活動を行ってきましたが、来年度は、5時間の日の放課後も活用しながら、もう少し回数を増やしていこうかと考えています。

自分が小さい頃のことを思い出してみると、異学年の活動は、日常の遊びの中でできていました。それは、地域にたくさんの先輩後輩がいたからです。自分が、低学年の時、高学年の先輩方は、嫌がることなく私を遊びに入れてくれました。でも、先輩方は勝ち負けを真剣に競っています。そんな中でも遊びに入れてくれるのですが、その時に言われた言葉が

「裕作、みそっかすな。」

でした。今思うと、（なかなかひどい言葉だな）と思いますが、当時の私にとっては、とてもうれしい言葉でした。「みそっかす」とは、「同じことはさせてもらえないけれど、体制には影響のない人」という意味です。つまり、私が野球に混ぜてもらったとして、アウトになろうがセーフになろうが、盗塁をしようがホームインしようが、先輩方には全く関係がないということです。ところが、そんなことは、私には関係ありません。私は、みんなと一緒に遊べるのが、一人前として扱ってもらったことが、ただただうれしかったのです。その中で、先に紹介したメリットの中のいくつかを学んだのではないかと思います。

様々な人と交流することは、人を成長させる上で必要なことだと、改めて実感しているところです。

今は、子供の数も減り、近所の子供たちと外で遊ぶということも私が子供の頃に比べ、大分減ったように感じています。そうすると、異学年交流の場を提供できる場所の一つが、学校ということになります。学校では、縦割り班活動を始め、学校行事やクラブ活動、委員会活動等で、異学年交流を行っていますが、今後も子供たちがより主体性を発揮しながら活動できる異学年交流が実施できるよう、工夫しながら指導に当たり、子供たちの社会性をより一層育てていきたいと思っています。